

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード		1-2-2			事業名	特別支援学級の整備
担 当	教育委員会学校教育部指導担当課 永木 Tel 211-3851					
全 体 計 画						
事業内容	特別支援教育の対象となる児童生徒の通学にかかる負担の軽減を図り、可能な限り地域の学校で学ぶことができるよう特別支援学級の整備拡充を図る。 特別支援学級の開設により、特別支援学級担当教員が配置されることから、開設校における特別支援教育の体制強化を図ることが出来る。 また、通級指導教室については、対象とする障がい及び配置等について検討を行い、開設・整備を行う。			<年度別の事業内容>		
				第2次新まちづくり計画では各年度とも小中学校あわせ10校10学級の特別支援学級未設置校への開設整備を行うとともに、簡易整備で特別支援学級を開設した学校について、段階的に追加整備を行い標準仕様整備とすることとしている。		
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容（決算）			平成20年度事業内容（決算）		
	以下のとおり、特別支援学級の開設を行った。			以下のとおり、特別支援学級開設・教室整備を行った。		
	小学校 27校29学級 うち 知的障がい学級 12学級 情緒障がい学級 17学級 中学校 3校3学級 うち 知的障がい学級 1学級 情緒障がい学級 2学級 計 30校32学級 うち 知的障がい学級 13学級 情緒障がい学級 19学級 簡易整備への追加整備 中学校2校			小学校 17校21学級 うち 知的障がい学級 9学級 情緒障がい学級 12学級 中学校 7校8学級 うち 知的障がい学級 3学級 情緒障がい学級 5学級 計 24校29学級 うち 知的障がい学級 12学級 情緒障がい学級 17学級 簡易整備への追加整備 小学校9校 中学校1校		
	平成21年度事業内容（決算）			平成22年度事業内容（予算）		
	以下のとおり、特別支援学級開設・教室整備を行った。			以下のとおり、特別支援学級開設・教室整備を行う。		
小学校 12校12学級 うち 知的障がい学級 7学級 情緒障がい学級 5学級 中学校 8校8学級 うち 知的障がい学級 6学級 情緒障がい学級 2学級 計 20校20学級 うち 知的障がい学級13学級 情緒障がい学級 7学級			小学校 18校18学級 うち 知的障がい学級 2学級 情緒障がい学級16学級 中学校 5校6学級 うち 知的障がい学級 2学級 情緒障がい学級 4学級 計 23校24学級 うち 知的障がい学級 4学級 情緒障がい学級20学級			

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	1-2-2		事業名	特別支援学級の整備				
達成目標の状況								
項 目			18年度末 (現 状)	19年度末 (実 績)	20年度末 (実 績)	21年度末 (実 績)	22年度末 (予 定)	22年度末 (目 標)
特別支援学級設置率			43%	49%	55%	58%	64%	55%
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)								
<p>■市民との連携、市民参加 教育委員会のホームページにおいて、特別支援学級設置校の一覧を公開している。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] (該当なし) [人材協力] (該当なし) [情報協力] (該当なし) [その他の協力] (該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>								
評 価 (成 果)					課 題			
<p>特別支援学級未設置校への特別支援学級開設を行ったことにより、児童生徒が区域外の特別支援学級に通学しなければならないことによる負担が軽減されるとともに、同じ地域の子どもたちとの交流の機会が多くなり、地域社会との結びつきが強くなる。</p>					<p>特別支援学級未設置校への特別支援学級新設の要望が増加しており、簡易な整備の導入による経費の削減を図っても、予算上の制約から、特別支援学級新設の要望に応ずることが困難となっている。また、同様の理由から、簡易な整備で開設した特別支援学級について、追加整備を行うことが困難となっている。</p>			
今 後 の 事 業 の 予 定 ・ 方 向								
<p>本市の特別支援学級設置率は、他の政令市と比較し低く、地域の学校の特別支援学級に通学することのできない児童生徒が多いことから、引き続き未設置校への整備を拡充するとともに、追加整備実施年次の見直し及び予算増の検討により、設置要望増への対応を図る。</p>								

(単位:千円)

施策体系コード		1-2-2		事業名		特別支援学級の整備	
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	31,045	31,000	31,000	30,955	124,000	
	財源						
	国・道支出金	0	0	0	0	0	
	市内債	0	0	0	0	0	
	その他の	0	0	0	0	0	
実績	一般財源	31,045	31,000	31,000	30,955	124,000	
予算	事業費	31,045	29,822	28,182	27,336	116,385	
	財源						
	国・道支出金	0	0	0	0	0	
	市内債	0	0	0	0	0	
	その他の	0	0	0	0	0	
実績	一般財源	31,045	29,822	28,182	27,336	116,385	
実績	事業費	32,242	51,668	23,810	—	107,720	
	財源						
	国・道支出金	0	0	0		0	
	市内債	0	0	0		0	
	その他の	0	0	0		0	
実績	一般財源	32,242	51,668	23,810		107,720	
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)					108.9%
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
《全体》							
[19年度] 計画に比べ、特別支援学級開設要望が多かったことから、簡易整備により特別支援学級開設数を増やした。							
[20年度] 計画に比べ予算が減少したが、特別支援学級開設要望が多かったことから、事業費を確保し、開設数の確保と追加整備を実施した。							
[21年度] 計画どおりの整備を行った。							
[22年度]							